

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設時に職員で理念を作り上げた。職員には入職時に理念と意味を説明している。また、全体会議時スタッフに意見を聞き理念の見直しを行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝ミーティング時に復唱し職員に理念を浸透させている。ケアプランや日々の支援に関しては理念を基に取り組んでいる。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入所時に理念についての説明を行い、玄関のわかりやすい所に理念を掲示している。又、運営推進会議時理念と取り組みについて説明の機会を設けている。		
<b>2. 地域との支え合い</b>					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の行事は積極的に参加をし、近所の方には、こちらから挨拶をしている。ホーム内行事があるときは立ち寄ってもらうようチラシを配布している。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、毎月区費支払いを利用者と出かけている。毎月区長から配布される広報や地域の方より行事の情報を頂き参加に努めている。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	短大より実習生2名を受け入れ高齢者や介護の現場に触れる機会を提供している。運営推進会議の中で地域の高齢者の方に困っていること等がないか区長より情報を頂いている。	○	地域の中で認知症に対しての悩みや相談ある際は、勉強会を開催していきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価を各自読み全体会議にて改善内容を検討した。又、外部評価について説明し、自己評価を各自記入してもらい管理者にてまとめている。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方より小学校の見守り隊加入に関しての情報を頂いたり、ご家族からは利用者の日々の状態を詳しく知りたいと希望あり面会時、口頭及び記録を見せ伝えている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居相談者家族内での意見の相違の対応について包括支援センターに出向きアドバイスを頂いた。ケアマネ連絡会・事業所連絡会に参加し必要時に相談を行っている。	○	介護保険に関して新規制度等の説明を家族に行う際は、細かい所まで対応できるよう市町村職員の方の協力を得ていきたい。
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を活用予定の利用者の方がおられ、裁判所へ手続きの仕方や内容を問い合わせ対応できるようにしている。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	全体会議にて身体拘束について学ぶ機会を設けた。10月末には職員が外部研修に参加予定であり、学んだ内容を全職員に伝え共有する。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料が負担となられているご家族の相談に対し、他施設の紹介や情報提供を行い、転所され不安を解消することができた。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とのコミュニケーションを密にし一対 一での会話の時間を持つことで意見等を言い やすい環境を作っている。運営推進会議でも 毎回別の利用者が参加され、意見を頂いてい る。不満等があった際は職員で話し合い解決 策を本人に伝え安心してもらう。		
14	8	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	毎月個別の新聞を作成しホームでの生活状 況・担当職員の変更があった場合は写真とコ メントを掲載している。利用料支払い時や面 会時には記録を見せ説明している。健康状態 変化時必要に応じ看護師より電話連絡を行っ ている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時家族へ苦情相談窓口を文書及び口頭で 説明している。また、玄関には苦情解決制度 のご案内を掲示し第三者委員会の告知をおこ なっている。運営推進会議でも参加家族に意 見を頂くようにしている。	○	毎月のホーム新聞内に定期的に意見表及び苦 情窓口の紹介を行っていききたい。
16	—	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	直接意見を言いにくい場合はロッカールーム に設置している意見箱を活用できる環境であ る。また、必要に応じ職員と管理者や一対一 で面接する機会を設け意見を引き出してい る。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	行事や外出予定日などは職員の人員を増やし 事故がないよう配慮している。また、突発的 な時も職員の勤務調整はスムーズに行えてい る。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	本年度離職者は一名しか居らず、産休等で新 しい職員が入職する場合は一ヶ月間の引継ぎ 期間を設け利用者へのダメージを防ぐ配慮を している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員は20代～60代までと幅広い年齢層である。職員の能力に応じ業務内容も考慮している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホームの理念の中にも自己決定の尊重を謳っており、その意味についても各職員振り返る場を作った。又、町で開催された人権に関する講演会にも積極的に参加している。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員に研修の呼びかけ案内を行っている。研修内容は本人希望や法人側が個々の能力に応じた研修呼びかけを行っている。受講するにあたっては勤務調整も考慮している。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域内グループホームに行事案内を行い交流を図る機会を設けている。他グループホームからの案内が来た時は職員の学びの場として必ず参加するようにしている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年二～三回食事会を行っている。又、福利厚生により映画・レジャー等の割引が利用できるようになっている。法人も有休休暇を気軽に利用できるような取り組みを行っている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が年二回自己評価を行い、それに対して管理者が評価を行っている。希望する研修等がある場合は他職員とも協力し資格取得を後押しできる環境である。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族だけで相談に来られた場合でも可能な限り、本人にも来所して頂き、直接話しを聞き安心して入所できるよう努めている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談・見学は随時受け付けている。入所前には本人・家族と直接面談する機会を設けている。又、必要に応じ家族のみの面接や本人のみの面接を実施している。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	満床等で入居できない方に対しては、在宅サービスや施設案内を行っている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前には、面接・見学を含め本人様に出来るだけ来所して頂くようお願いしている。入所に不安のあった利用者の方もホームの雰囲気を見て安心して入所された。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活歴を把握し、調理の仕事をされていた方には調理指導を頂いたり、保育士の職歴がある方には、工作等のアドバイスを貰ったり支えあう関係を築いている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	帰宅願望が強い利用者の方に対しては、家族の面会の日数を増やしたり、外出の機会を設けてもらっている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族双方の意見を聞き関係性の理解に努め、電話・手紙を書くことで良い関係性が築けるよう支援している。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々のお寺参りや日常的に続けてきた神社参り・地域の行事参加等職員と一緒に出かける支援を行っている。		
33	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	食事時等コミュニケーションを利用者同士がとり易いよう座席に配慮。必要時には座席の変更を随時行っている。又、新規利用者があった場合は他利用者に紹介を行いコミュニケーションがとり易いようにしている。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院により退所された利用者に対しては、来院時は声を掛けるよう気がけている。他施設へ入所された場合も利用者と共に訪問している。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
35	17	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	主にセンター方式を用い、アセスメントをとっている。日々の職員とのコミュニケーションや面会時家族より得た情報を職員で共有している。		
36	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を用いたり家族に情報を頂いたりしている。又、情報共有するために生活日誌や申し送りノートに記載し全職員が共有できるシステムを用いている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活日誌や申し送りノートを確認することで不在時の状態把握が出来るようにしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時に家族の要望を聞いている。利用者一人一人に担当があり、家族へも担当者紹介を行い、気兼ねなく意見を言える環境を作っている。又、担当者が中心となり月一回のモニタリングを実施しプランに反映させている。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月一回モニタリング実施。又、退院後等状態変化に応じプランの再検討を行っている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録表に毎日の様子やプラン実施状況を必要に応じ文書や記号で記載しモニタリングに活用している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院時には頻繁に病院に出向き、病状把握に努めると共に必要に応じ洗濯支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
42	—	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	無断外出時の協力を所轄の交番及びタクシー会社に依頼している。小学校の見守り隊にも加入し、教育機関に協力している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	地域密着型サービス連絡会やケアマネ連絡会議に参加し情報の交換を行っている。必要に応じ他のサービスの紹介を行っている。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	在宅か施設入所を悩まれている家族に対しての返答の相談を行いアドバイスを頂いた。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前に本人及び家族の希望を聞き、入所後は母体病院が主治医となり週一回の往診を行っている。希望に応じ診療項目以外でも母体病院を通し他医療機関を紹介できる環境である。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	母体病院の主治医と相談し、近隣の認知症専門医を受診している。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤で看護師が居り、日常の健康管理や状態変化時の対応や指示をしている。必要に応じ母体病院との連携を図っている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	定期的にスタッフが病院へ行き、病状の把握に努めている。病院の看護師やSWと密な連絡を取り早期退院に向け連携を図っている。又、関連機関と地域連携在宅支援委員会で情報交換の機会を設けている。		



項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	軽度の段階より、家族・主治医・看護師・スタッフで話し合い重度化や終末期に向けた方針を共有している。常時医療行為が必要になるまでは、ホームで過ごしたいと希望がある場合は病院と連携し、支援していく。	○	終末期に関する勉強の機会を増やしていきたい。
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	関連施設の地域連携在宅支援委員会で、重度化や終末期になった時に備えての情報交換を行い、全体で支えていくシステムをとっている。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族からの情報提供だけでなく、転居先のスタッフに当ホームでの状態を直接見てもらい把握して頂くことで環境の変化を最小限に抑え、本人に安心感を持ってもらうよう支援している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	各個人に苗字でさんづけを行い、敬語で声掛けを行っている。居室に入る際は、ノックを行って本人の了承の元訪室している。記録等はホーム外に持ち出す事なく、個人情報はシュレッターで処理している。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	難聴の利用者には筆談やジェスチャーを用いて自己決定を尊重した支援をしている。必要に応じ一対一での会話の時間をもち、本人の意向を聞きだしている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れに決まりは無く、食事の時間、入浴等本人の体調や気分により、支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入所前より行かれていた美容室へ家族の協力を得て連れて行って頂いている。又、本人が髪染めを希望される場合はホームにて職員が行っている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	目の付く所にメニュー内容が書かれており、苦手な物は他のものと変更したり、味付けは、好みに応じ調味料を使用できる環境である。食事の準備や片付けも利用者と一緒にやっている。		
57	—	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人希望により、ホーム内で週一回の飲酒の機会を設けている。又、月一回程度は外食時飲酒され、雰囲気を楽しまれている。買い物やお菓子販売にて各自好みのおやつを購入され、選ぶ楽しさも提供できている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握している。失敗のないよう早めの誘導・声かけを行っている。パットの種類や当て方を工夫し、不快感の軽減に努めている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日のバイタル測定を行う事で安心して入浴できるよう支援している。本人の希望を伺いながら、入浴時間を調整している。浴槽より眺められる庭があり、季節感を感じられる環境である。		
60	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	自宅より寝具やベッドを持参して頂き、なじみのもので休まれている。就寝時の部屋の明かりは個人により、調節している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ダンス好きの方には、ホーム内で音楽をかけ職員と一緒に踊ったり、月一回近隣のダンスホールへ出掛け、一般客の方とペアを組みダンスを楽しまれている。ダンスに出掛けるようになり姿勢が良くなり、生活全般に意欲が見られるようになった。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方は本人所持金があり、自己管理されている。外出時等支払いの際は、本人にお金を持ってもらい、職員付き添いの元行っている。		
63	28	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があれば、職員の人数を調整し出掛けている。各利用者に担当職員がおり、本人の意向を聞き日程や外出先・外食内容を決めている。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段会えない県外の家族の元への外出する計画を立て、家族と情報交換を行い協力して出掛けることができた。職員・家族との交流をもつことができた。		
65	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族へ週一回電話をする機会や手紙の返事を書くことを実施している。手紙の投函も職員と一緒に出掛けている。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	面会者が来られた際は、玄関に職員が出向き挨拶を行い個々に応じ案内している。お茶やお菓子を提供する際、職員も会話をするように心がけている。写真を撮りコミュニケーションを図ることもある。	○	知人、友人の面会の機会が少ない為、手紙や電話にて訪問案内を行う取り組みをしていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない為の対応の仕方について話し合いの場を持ち職員間で共有している。身体拘束について詳しく学びたいと言う職員もおり外部研修参加予定である。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は常に開錠しており自由に出入りが行えるようにしている。帰宅願望者が外へ出られた際は職員が付き添っている。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	玄関にセンサーが設置されており、利用者や外部者の出入りを把握し事故防止に努めている。夜間は個々に応じた一時間毎の巡視を実施している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人での所持品を把握している。事務所保管、個人所有の危険物はチェック表を活用し毎日確認を行っている。洗剤や消毒液等は棚の上に置いたりし目の届かない所に保管している。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告書を活用し対応策を話し合い職員間で共有することで事故防止に努めている。吸引器の使い方を看護師が職員に一人ずつ指導を行い窒息時の対応を学んでいる。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員全員、消防署主催の救命講習に参加している。看護師がバイタル測定や急変時の対応について随時指導を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回消防署指導による日勤帯、夜間帯の避難、消火訓練を行っている。運営推進会議で地区の代表の方に協力を呼びかけ避難訓練に参加して頂いた。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時や状態変化時、起こりえるリスク対応策について家族に話し理解を頂いている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
75	—	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、バイタルチェックを行っている。異変の発見時には看護師に報告、指示を仰いでいる。又、朝と夕の申し送りを確実に実行経過を共有している。		
76	—	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護生活日誌に処方箋を閉じており薬の内容、副作用等把握できるようにしている。薬の変更、追加時には看護師より報告、申し送りノートに記載し伝達している。飲み忘れのないよう服薬チェック表に記入している。		
77	—	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表を活用し、利用者の排便の状態を把握している。便秘時は個々により対応の仕方を決め、スタッフで共有している。又、栄養バランスを考え、食物繊維を取り入れる献立の工夫も行っている。		
78	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後、声かけにて歯磨き・一部介助・磨き残しの介助等個別に対応している。介助困難な入居者の方には、歯磨きシートを使用し口腔内清潔保持に努めている。又、週一回の訪問歯科よりブラッシング指導等頂いている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の食事摂取量を記録し、確実に把握している。メニューは栄養士による確認にてバランスが取れている。個々に応じ、粥や刻み食の形態を提供している。		
80	—	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成しており、手洗い、うがいの励行。ハイターや次亜塩素酸を用いて消毒を実施し予防に努めている。		
81	—	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は毎日、熱湯消毒を行い定期的に冷蔵庫、食品保管庫の清掃を行わない賞味期限等の確認をしている。ほぼ毎日、買い物に出かけ新鮮な食材での調理を実施している。ホームの敷地内に畑があり野菜を栽培しており採りたてを料理に使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	敷地内に入る門は日中開放している。建物の周囲に植木があり玄関には鉢植えや花を飾り季節感を出している。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量や照明、カーテン使用し光の調節に気を付けている。玄関やフロア内に四季の花や装飾をし季節感を感じられるようにしている。トイレ、居室等は24時間換気扇を作動させている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のソファで気の合う利用者同士で談話し過ごされたりしている。中庭に出てベンチで日光浴をされ一人の時間を過ごされている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、馴染みの家具等の持ち込みを依頼している。本人、家族と相談しながら配置を決めている。個々に応じ畳を敷き居心地良い空間を提供している。		
86	—	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	建物内は24時間換気されている。一日三回温度、湿度のチェックを行い、必要に応じ換気、霧吹き、加湿器、エアコン温度調節を行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーになっており、車椅子でも歩行器でも自由に移動できるスペースが充分にある。廊下、ホール、トイレ、脱衣所等手すりが付いており残存機能を活かし安全に生活できるようになっている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入り口の写真は個々の利用者の目の高さに合わせている。又、ホール内の装飾は利用者が見やすい位置に掲示している。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭には畑、花壇、芝がありテーブル、椅子を置いており利用者が会話を楽しんでいる。野菜の収穫や花を眺めたり木々の変化で季節を感じる事が出来る。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目</b>				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

各利用者に担当職員がおり、本人の希望を聞きながら、外出の機会を設けている。魚釣りやダンスホール・外食等個々に応じた外出先を決定している。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設時に職員で理念を作り上げた。職員には入職時に理念と意味を説明している。又、全体会議時スタッフに意見を聞き理念の見直しを行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝ミーティング時に復唱し職員に理念を浸透させている。ケアプランや日々の支援に関しては理念を基に取り組んでいる。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入所時に理念についての説明を行い、玄関のわかりやすい所に理念を掲示している。又、運営推進会議時理念と取り組みについて説明の機会を設けている。		
<b>2. 地域との支え合い</b>					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の行事は積極的に参加をし、近所の方には、こちらから挨拶をしている。ホーム内行事があるときは立ち寄ってもらうようチラシを配布している。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、毎月区費支払いを利用者と出かけている。毎月区長から配布される広報や地域の方より行事の情報を頂き参加に努めている。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	短大より実習生2名を受け入れ高齢者や介護の現場に触れる機会を提供している。運営推進会議の中で地域の高齢者の方に困っていること等がないか区長より情報を頂いている。	○	地域の中で認知症に対しての悩みや相談がある際は、勉強会を開催していきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価を各自読み全体会議にて改善内容を検討した。又、外部評価について説明し、自己評価を各自記入してもらい管理者にてまとめている。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方より小学校の見守り隊加入に関しての情報を頂いたり、御家族からは利用者の日々の状態を詳しく知りたいと希望あり面会時、口頭及び記録を見せ伝えている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居相談者家族内での意見の相違の対応について包括支援センターに出向きアドバイスを頂いた。ケアマネ連絡会・事業所連絡会に参加し必要時に相談を行っている。	○	介護保険に関して新規制度等の説明を家族に行う際は、細かい所まで対応できるよう市町村職員の方の協力を得ていきたい。
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を活用予定の利用者の方がおられ、裁判所へ手続きの仕方や内容を問い合わせ対応できるようにしている。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	全体会議にて身体拘束について学ぶ機会を設けた。10月末には職員が外部研修に参加予定であり、学んだ内容を全職員に伝え共有する。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料が負担となられている御家族の相談に対し、他施設の紹介や情報提供を行い、転所され不安を解消することができた。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とのコミュニケーションを密にし一対 一での会話の時間を持つ事で意見等を言いや すい環境を作っている。運営推進会議でも毎 回別の利用者が参加され、意見を頂いてい る。不満等があった際は職員で話し合い解決 策を本人に伝え安心してもらう。		
14	8	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	毎月個別の新聞を作成しホームでの生活状 況・担当職員の変更があった場合は写真とコ メントを掲載している。利用料支払い時や面 会時には記録を見せ説明している。健康状態 変化時必要に応じ看護師より電話連絡を行っ ている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時家族へ苦情相談窓口を文書及び口頭で 説明している。又、玄関には苦情解決制度の ご案内を掲示し第三者委員会の告知を行って いる。運営推進会議でも参加家族に意見を頂 くようにしている。	○	毎月のホーム新聞内に定期的に意見表及び苦 情窓口の紹介を行っていききたい。
16	—	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	直接意見を言いにくい場合はロッカールーム に設置している意見箱を活用できる環境であ る。又、必要に応じ職員と管理者一対一で面 接する機会を設け意見を引き出している。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	行事や外出予定日などは職員の人員を増やし 事故がないよう配慮している。又、突発的な 時も職員の勤務調整はスムーズに行えてい る。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	本年度離職者は一名しか居らず、産休等で新 しい職員が入職する場合は一ヶ月間の引継ぎ 期間を設け利用者へのダメージを防ぐ配慮を している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員は20代～60代までと幅広い年齢層である。職員の能力に応じ業務内容も配慮している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホームの理念の中にも自己決定の尊重を謳っており、その意味についても各職員振り返る場を作った。又、町で開催された人権に関する講演会にも積極的に参加している。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員に研修の呼びかけ案内を行っている。研修内容は本人希望や法人側が個々の能力に応じた研修呼びかけを行っている。受講するにあたっては勤務調整も考慮している。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域内グループホームに行事案内を行い交流を図る機会を設けている。他グループホームからの案内が来た時は職員の学びの場として必ず参加するようにしている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年二～三回食事会を行っている。又、福利厚生により映画・レジャー等の割引が利用できるようになっている。法人も有休休暇を気軽に利用できるような取り組みを行っている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が年二回自己評価を行い、それに対して管理者が評価を行っている。希望する研修等がある場合は他職員とも協力し資格取得を後押しできる環境である。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族だけで相談に来られた場合でも可能な限り、本人にも来所して頂き、直接話しを聞き安心して入所できるよう努めている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談・見学は随時受け付けている。入所前には本人・家族と直接面談する機会を設けている。又、必要に応じ家族のみの面接や本人のみの面接を実施している。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	満床等で入居できない方に対しては、在宅サービスや施設案内を行っている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前には、面接・見学を含め本人様に出来るだけ来所して頂くようお願いしている。入所に不安のあった利用者の方もホームの雰囲気を見て安心して入所された。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活歴を把握し、調理の仕事をされていた方には調理指導を頂いたり、保育士の職歴がある方には、工作等のアドバイスを貰ったり支えあう関係を築いている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	帰宅願望が強い利用者の方に対しては、家族の面会の日数を増やしたり、外出の機会を設けてもらっている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族双方の意見を聞き関係性の理解に努め、電話・手紙を書くことで良い関係性が築けるよう支援している。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々のお寺参りや日常的に続けてきた神社参り・地域の行事参加等職員と一緒に出かける支援を行っている。		
33	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	食事時等コミュニケーションを利用者同士がとり易いよう座席に配慮。必要時には座席の変更を随時行っている。又、新規利用者があった場合は他利用者に紹介を行いコミュニケーションがとり易いようにしている。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院により退所された利用者に対しては、来院時は声を掛けるよう気がけている。他施設へ入所された場合も利用者と共に訪問している。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
35	17	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	主にセンター方式を用い、アセスメントをとっている。日々の職員とのコミュニケーションや面会時家族より得た情報を職員で共有している。		
36	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を用いたり家族に情報を頂いたりしている。又、情報共有するために生活日誌や申し送りノートに記載し全職員が共有できるシステムを用いている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活日誌や申し送りノートを確認することで不在時の状態把握が出来るようにしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時に家族の要望を聞いている。利用者一人一人に担当があり、家族へも担当紹介を行い、気兼ねなく意見を言える環境を作っている。又、担当者が中心となり月一回のモニタリングを実施しプランに反映させている。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月一回モニタリング実施。又、退院後等状態変化に応じプランの再検討を行っている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録表に毎日の様子やプラン実施状況を必要に応じ文書や記号で記載しモニタリングに活用している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院時には頻繁に病院に向き、病状把握に努めると共に必要に応じ洗濯支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
42	—	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	無断外出時の協力を所轄の交番及びタクシー会社に依頼している。小学校の見守り隊にも加入し、教育機関に協力している。		



項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	地域密着型サービス連絡会やケアアネ連絡会議に参加し情報の交換を行っている。必要に応じ他のサービスの紹介を行っている。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	在宅か施設入所を悩まれている家族に対しての返答の相談を行いアドバイスを頂いた。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前に本人及び家族の希望を聞き、入所後は母体病院が主治医となり週一回の往診を行っている。希望に応じ診療項目以外でも母体病院を通し他医療機関を紹介できる環境である。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	母体病院の主治医と相談し、近隣の認知症専門医を受診している。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤で看護師が居り、日常の健康管理や状態変化時の対応や指示をしている。必要に応じ母体病院との連携を図っている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	定期的にスタッフが病院へ行き、病状の把握に努めている。病院の看護師やSWと密な連絡を取り早期退院に向け連携を図っている。又、関連機関と地域連携在宅支援委員会で情報交換の機会を設けている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	軽度の段階より、家族・主治医・看護師・スタッフで話し合い重度や終末期に向けた方針を共有している。常時医療行為が必要になるまでは、ホームで過ごしたいと希望がある場合は病院と連携し支援していく。	○	終末期に関する勉強の機会を増やしていきたい。
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	関連施設の地域連携在宅支援委員会で、重度化や終末期になった時に備えての情報交換を行い、全体で支えていくシステムをとっている。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族からの情報提供だけでなく、転居先のスタッフに当ホームでの状態を直接見てもらい把握して頂くことで環境の変化を最小限に抑え、本人に安心感を持ってもらうよう支援している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	各個人に苗字でさんづけを行い、敬語で声掛けを行っている。居室に入る際は、ノックを行なって本人の了承の元入室している。記録等はホーム外に持ち出す事なく、個人情報はシュレッターで処理している。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自室等で職員と一対一で会話する時間を作り話やすい環境の中で意向を聞きだしやすいよう配慮している。外出先を決める際、特定の希望場所がない場合は、数種類の外出先の中から選んで頂いている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れに決まりは無く、食事の時間、入浴等本人の体調や気分により支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入所前から自分で散髪される方が居られ、継続して行ってもらっている。美容師の経験のある職員がおり、アドバイスをを行っている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	目の付く所にメニュー内容が書かれており、苦手な物は他のものと変更したり、味付けは、好みに応じ調味料を使用できる環境である。食事の準備や片付けも利用者と一緒にやっている。		
57	—	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	持病がある方に対して飴を提供する際、ノンシュガーの飴を提供する等工夫している。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握している。失敗のないよう早目の誘導・声かけを行っている。パットの種類や当て方を工夫し、不快感の軽減に努めている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日のバイタル測定を行う事で安心して入浴できるよう支援している。本人の希望を伺いながら、入浴時間を調整している。浴槽より眺められる庭があり、季節感を感じられる環境である。		
60	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	自宅より寝具やベッドを持参して頂き、なじみのもので休まれている。就寝時の部屋の明かりは個人により、調節している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	魚釣りが好きな方には、毎日金魚の餌やりを行ってもらい役割としている。又、気候が良い時期には、職員と近隣のクリークへ魚釣りへ出かけ、釣れた魚の魚拓を居室へ飾り楽しみの支援を行っている。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方は本人所持金があり、自己管理されている。外出時等支払いの際は、本人にお金を持ってもらい、職員付き添いの元行っている。		
63	28	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があれば、職員の人数を調整し出掛けている。各利用者に担当職員がおり、本人の意向を聞き日程や外出先・外食内容を決めている。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	主介護者が高齢であり自宅への外出が困難な利用者に対して、職員二名付き添い自宅への仏様参りを実施した。		
65	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等から贈り物があつた場合は電話や手紙にてお礼を伝えるようにしている。家族より親から手紙をもらうのは初めてで嬉しいと喜ばれる。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	面会者が来られた際は、玄関に職員が出向き挨拶を行い個々に応じ案内している。お茶やお菓子を提供する際、職員も会話をするように心がけている。写真を撮りコミュニケーションを図ることもある。	○	知人・友人の面会の機会が少ない為、手紙や電話にて訪問案内を行う取り組みをしていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない為の対応の仕方について話し合いの場を持ち職員間で共有している。身体拘束について詳しく学びたいと言う職員もおり外部研修参加予定である。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は常に開錠しており自由に出入りが行えるようにしている。帰宅願望者が外へ出られた際は職員が付き添っている。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	玄関にセンサーが設置されており、利用者や外部者の出入りを把握し事故防止に努めている。夜間は個々に応じた一時間毎の巡視を実施している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人での所持品を把握している。事務所保管、個人所有の危険物はチェック表を活用し毎日確認を行なっている。洗剤や消毒液等は棚の上に置いたりし目の届かない所に保管している。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告書を活用し対応策を話し合い職員間で共有することで事故防止に努めている。吸引器の使い方を看護師が職員に一人ずつ指導を行い窒息時の対応を学んでいる。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員全員、消防署主催の救命講習に参加している。看護師がバイタル測定や急変時の対応について随時指導を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回消防署指導による日勤帯、夜間帯の避難、消火訓練を行っている。運営推進会議で地区の代表の方に協力を呼びかけ避難訓練に参加して頂いた。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時や状態変化時、起こりえるリスク対応策について家族に話し理解を頂いている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
75	—	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、バイタルチェックを行っている。異変の発見時には看護師に報告、指示を仰いでいる。又、朝と夕の申し送りを確実に実行経過を共有している。		
76	—	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護生活日誌に処方箋を閉じており薬の内容、副作用等把握できるようにしている。薬の変更、追加時には看護師より報告、申し送りノートに記載し伝達している。飲み忘れのないよう服薬チェック表に記入している。		
77	—	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表を活用し、利用者の排便の状態を把握している。便秘時は個々により対応の仕方を決め、スタッフで共有している。又、栄養バランスを考え、食物繊維を取り入れる献立の工夫も行っている。		
78	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後、声かけにて歯磨き・一部介助・磨き残しの介助等個別に対応している。介助困難な入居者の方には、歯磨きシートを使用し口腔内清潔保持に努めている。又、週一回の訪問歯科よりブラッシング指導等頂いている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の食事摂取量を記録し、確実に把握している。メニューは栄養士による確認にてバランスが取れている。個々に応じ、粥や刻み食の形態を提供している。		
80	—	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成しており、手洗い、うがいの励行。ハイターや次亜塩素酸を用いて消毒を実施し予防に努めている。		
81	—	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は毎日、熱湯消毒を行い定期的に冷蔵庫、食品保管庫の清掃を行わない賞味期限等の確認をしている。ほぼ毎日、買物に出かけ新鮮な食材での調理を実施している。ホームの敷地内に畑があり野菜を栽培しており採りたてを料理に使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	敷地内に入る門は日中開放している。建物の周囲に植木があり玄関には鉢植えや花を飾り季節感を出している。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量や照明、カーテン使用し光の調節に気を付けている。玄関やフロア内に四季の花や装飾をし季節感を感じられるようにしている。トイレ、居室等は24時間換気扇を作動させている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のソファで気の合う利用者同士で談話し過ごされたりしている。中庭に出てベンチで日光浴をされ一人の時間を過ごされている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、馴染みの家具等の持ち込みを依頼している。本人、家族と相談しながら配置を決めている。個々に応じ畳を敷き居心地良い空間を提供している。		
86	—	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	建物内は24時間換気されている。一日三回温度、湿度のチェックを行い、必要に応じ換気、霧吹き、加湿器、エアコン調節を行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーになっており、車椅子でも歩行器でも自由に移動できるスペースが充分にある。廊下、ホール、トイレ、脱衣所等手すりが付いており残存機能を活かし安全に生活できるようになっている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入り口の写真は個々の利用者の目の高さに合わせている。又、ホール内の装飾は利用者が見やすい位置に掲示している。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭には畑、花壇、芝がありテーブル、椅子を置いており利用者が会話を楽しんでいる。野菜の収穫や花を眺めたり木々の変化で季節を感じる事が出来る。		



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目</b>				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている		①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

各利用者に担当職員が居り、本人の希望を聞きながら、外出の機会を設けている。魚釣りやダンスホール・外食等個々に応じた外出先を決定している。